



小林 登美子 議員



古河市の地震災害への対策について

問 ①大地震発生時の対応策の活動内容、②有事に備え、今できる事として実施している訓練等はあるか、③災害時に備蓄品等の物資供給や、民間企業との協力体制について、以上を伺う。

答（総務部長兼危機管理監） ①人命救助を最優先に、自衛隊、消防、警察と連携しつつ、活動していく。②平成30年度以降、毎年継続して図上訓練を実施し

ている。③速やかな供給体制確立のため、民間物流の倉庫で災害対策用備蓄品を保管、管理を委託する方法で今後進めていく。

災害図上訓練 DIG (ディグ) の様子
(11月 古河第三中学校にて)

窓口業務委託について

問 ①サービス水準は維持できているのか、②市民満足度の向上はみられるのか、③安定的な人員確保はされているのか、④窓口職員の負担軽減はされたのか、⑤評価委員会等の設置について、⑥委託に対するメリット

について、以上を伺う。

答（市民部長） ①未だ基準を下回っているが、徐々に改善していることも確かである。②昨年度12月から1月にかけて、委託前に来庁者アンケートを行った。本年度も同時期に実施予定のため、この結果を一つの指標としたい。③受託業者がさまざまな手法により、人材確保に努めている。④職員アンケートの結果、「大幅に減った」、「少し減った」という回答が58%となり、負担軽減されていると考える。⑤設置する考えはない。⑥コストカットというより、民間事業者が有するスキル等を活用し、市民が質の高い窓口サービスを受けられることがメリットとなるよう、改善していきたい。



小森谷 博之 議員



まちづくりの推進について

問 令和7年に合併20周年を迎える。節目の年であり、その歩みを振り返り、未来へのビジョンを共有する良い機会であると考え。そこで、合併20周年事業の開催予定およびコンセプトについて、検討状況を伺う。

答（企画政策部長） 既存事業の拡充を含め、将来的に付加価値のある事業を考えており、イベントについても、古河市のレガ

シーとなるようなものを実施していく。検討状況については、15事業程度に絞り込んでいるが、引き続き精査している。花火大会等の既存事業やイベントには合併20周年記念の冠を付けてPRや周知を行い、合併20周年の機運の醸成を図っていく。

農業の振興について

問 流域治水において、水田が持つ雨水を貯める機能を利用し、大雨時に排水路への水の流出量を抑制する田んぼダムは有効な手段である。仕組みとしては、排水口に落水ますなどの器具を取り付け、排水量を抑制し、田んぼに降った雨水をゆっくりと排水するものである。そこで、落水ますの設置により洪水被害

を軽減する取り組みについての所見を伺う。

答（産業部長） 田んぼダムは低コストで簡易に設置できる有効な対策とされ、県内では令和6年6月現在、水戸市など6つの市町で実施されている。農林水産省の多面的機能支払交付金の活用や、県の補助金などを注視しつつ、洪水被害の軽減に効果的な対策を検討していきたい。

